

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020.9.23

発行責任者 宮崎 桃佳

支部新人陸上大会：士別陸上競技場

男女4種目で優勝

5人が全道出場権獲得

令和2年度第35回高体連名寄支部新人陸上競技大会・兼第36回北海道高等学校新人陸上競技大会名寄支部予選会が8月22日に士別市陸上競技場で行われた。今大会には、名寄、校幸、遠別農業、士別翔雲、下川商業、名寄産業、美深、礼文、稚内の計9校が参加。名高は男女とも、それぞれ4名が参加した。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、1選手が正式に出場できる個人種目は1種目のみで、さらに1種目のオープン参加（正式出場ではなく、大会の記録としては残らない参加）が認められた。リレー競技は4×100mRが正式種目となり、4×400mRはオープン種目に。そして、選手は個人種目の他に、両リレーへの参加が認められた。全道大会へは、各



男子1500m序盤で快走する藤原永遠君(左から2人目)



5000mWで熱く歩を進める笠原咲月さん
個人種目で1位の選手のみが出場権を獲得し、4×100mRは2位までが出場権獲得となる。

男子はオープン種目の4×400mRを含めて、トラック競技11種目とフィールド競技6種目が行われた。名高男子はオープン参加を含めて、トラック競技6種目、フィールド競技2種目に出場した。

1500mには藤原永遠君(2B)が出場。序盤から軽やかなフォームでトップを快走するが、中盤で士別翔雲の選手と熾烈な先頭争いを展開し、残り400mでトップを譲る。しかし、機をうかがう藤原君は残り100mでラストスパートして逆転。4分33秒19で1位となった。藤原君は3000mSCにもオープン参加したが、痛めた足と次の種目の4×400mRへの影響を考慮して走り、3

着でゴールした。

110mHには笛田慎也君(2C)とオープン参加で渋梨子大也君(1A)が出場。笛田君がスタートで飛び出し、トップで快調の走りとハードリングをみせるが、最後のハードルに足を当てて失速。残りの10mを全力で走りきるが、惜しくも1位と0.01秒差の19秒69で2位となった。渋梨子君は3着でゴールした。笛田君は100mにもオープン参加し、3着でゴールした。

走幅跳には渋梨子君とオープンで水上琉成君(2B)が出場。渋梨子君は躍動感のある跳躍で5m28を記録し、3位となった。

走高跳に出場した水上君は健闘するも、競技開始時の1m45をクリアできず、記録なしで終わった。

4×100mRには水上君、渋梨子君、藤原君、笛田君の4人で出場。名高はスタートで飛び出し先頭争いをするが、徐々に順位を落とし、48秒33で4位となった。

最終のオープン種目4×400mRには渋



遠心力を使い円盤を投げる湯川真琴さん



力強く砲丸を投げ放つ田中はみつさん

梨子君、藤原君、水上君、笛田君のオーダーで出場。渋梨子君がトップでバトンを繋ぐと、藤原君も快走し首位で水上君に繋ぐ。水上君

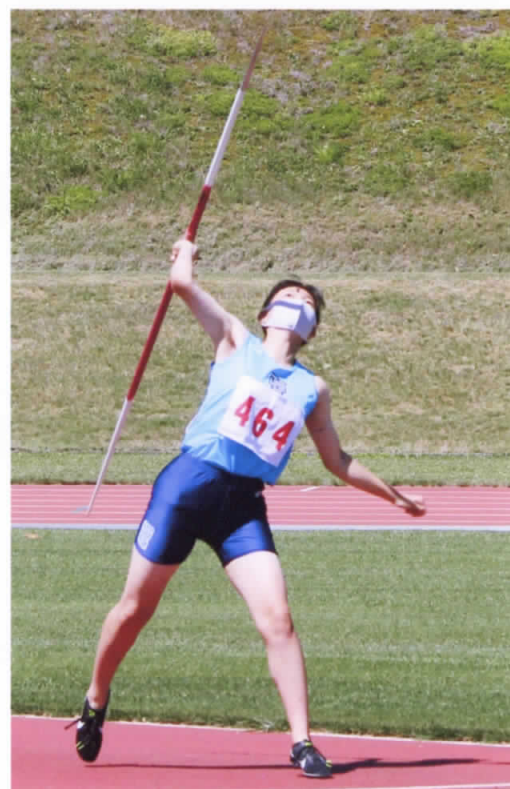


4×400mRで追いつける笛田慎也君(左から2人目)

が士別翔雲に抜かれ、僅かの差で笛田君にバトンを渡すと、笛田君は必死の走りで追走するが、そのまま2位でゴールした。

女子はオープン種目の4×400mRを含めて、トラック競技9種目とフィールド競技3種目が行われた。名高女子はトラック競技3種目、フィールド競技3種目に出場(オープン参加は4×400mRのみ)。

5000mWには笠原咲月さん(2C)が出場。暑さに耐えながら自らのペースで歩き続け、



力を込め槍を投擲する山田楓さん

35分04秒50で1位となった。

砲丸投に出場した田中はみつさん(2B)は力強い投擲で6m58を記録し1位。

円盤投に出場した湯川真琴さん(2A)も遠心力を利用して豪快に円盤を投げ、17m80を記録し1位となった。

やり投には山田楓さん(2A)が出場。練習より大きく記録を伸ばし、14m29の投擲をみせたが、美深選手に及ばず2位となった。

4×100mRには山田さん、笠原さん、

田中さん、湯川さんで出場。山田さんが士別翔雲に僅かに遅れて2位でバトンを笠原さんへ。その後、徐々に士別翔雲との差が開き、そのまま差を詰められず湯川さんがゴール。58秒63の2位となった。

最終のオープン種目4×400mRには名高チームのみが出場。笠原さん、田中さん、

山田さん、湯川さんのオーダーで臨んだ。全選手が懸命の力走をみせて、湯川さんがゴール。チームベストで好走した4人はゴール後にハイタッチ。充実の表情で競技を終えた。

以上の結果により、名高からは藤原君、笠原さん、田中さん、湯川さん、山田さんが全道大会への出場権を獲得した。

初の4×400mRを走りきった 笛田 慎也 主将

今回は高体連がなくなり、3年生がいなくなりましたが、3年生の思いも持って、みんなが全道に行けるようにしっかりと練習してきた。また、リレーのレース前にはバトン練習も頑張った。

大会では4×400mRが特に印象に残った。オープン種目で全道権はなかったが、

このメンバーで初めての4×400mRをしっかりと走りきれたのが良かったと思う。

また、4×100mRで全道に行きたかったが、4位という残念な結果となった。個々の走力がまだ足りないと感じた。

全道大会に出場する選手は自己ベストを更新できるように準備し、頑張りたい。

リレー2種目でチームベスト 笠原 咲月 女子主将

他校も含め出場者が1人のみの種目に出る選手もいたが、大会前にはそれぞれが自分の記録更新を狙って一生懸命に練習をしていた。

大会では、みんなで声を掛け合いながら励まし合いゴールした4×400mRが印象に残った。

大会を終えて、女子全員が全道出場権を獲得したこと、リレー2種目でともにチームベストを更新できたことが良かった。

全道大会では、1人1人が自己ベストを更新することや入賞すること、4×100mRでのバトンミスがなくすことを目標に、練習を頑張りたい。

持っている力を発揮できた 市川 聖 監督

コロナの影響で春先にやらなければいけない基本の練習が不足していたので、大会前には基本的な動きができるようにすることに重点をおき練習した。また、リレー経験者が1人しかいなかったのも、バトンパスの練習にも力を入れた。

大会を終え、練習不足が出てしまい、例

年通りの結果を出すことができなかったが自分たちの持っている力は充分発揮できたと思う。

全道大会は、全道を決められなかった選手の思いも共有して、自分たちらしい恥ずかしくないレースをすること、自己ベストを出すことを目指して参加してほしい。